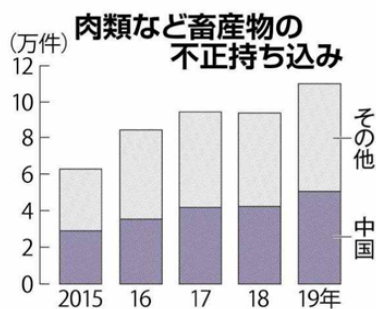




年 組 名前

道新で
ワークシート

アフリカ豚熱 侵入防ぎ



農林水産省がアフリカ豚熱（ASF）の水際対策を強めている。感染源になり得る肉類を国内に持ち込ませないようにすることが柱だ。違法な肉類持ち込みへの罰則を強化したほか、肉類を見つける探知犬を増やす。新型コロナウイルス流行を受けた入国規制は今後緩和される方向。対策強化の背景には、中国などからの渡航者が増えれば病原体侵入リスクも高まりかねない

農水省 不正持ち込みに罰則、探知犬増強

という懸念がある。

ASFは豚やイノシシに感染する家畜伝染病で、国内で広がる豚熱（CSF）とは別の病気。アジアやアフリカなど64カ国・地域で発生しているが、日本国内で発生例はない。有効なワクチンがなく、感染した豚はほぼすべて死ぬため、ひとたび国内で発生すれば養豚業への打撃は大きい。

最も懸念されるのは、海外から持ち込まれた肉類による感染だ。ウイルスのついた肉類がごみとして捨てられ、野生動物を介し感染を広げる恐れがある。2018年10月以降に中国やベトナムなどから運ばれて日本の空港で没収されたソーセージや豚肉製品を抽出検査したところ、88件（うち新千歳空港は11件）でウイルスか、その痕跡が見つかった。

た。

農水省は1日、不正な持ち込みへの罰則を強化した。違反した個人に科す罰金を100万円以下から300万円以下と3倍に引き上げたほか、法人には新たに5千万円以下の罰金を科すことにした。空港や郵便局で荷物から肉類を見つける探知犬も現在の96匹から来年3月までに140匹に増やす計画だ。

肉類などの不正持ち込みは、ここ5年で1・8倍に増え、中国からが半数近くを占める。政府は新型コロナウイルス対策で始めた入国規制を巡り、中国や韓国など12カ国・地域とのビジネス往来再開に向けた交渉を始める方針。江藤拓農水相は「病原体の侵入防止を徹底し、対策に万全を期す」と話している。

（長谷川裕紀）

2020年7月28日（火） 朝刊 全道遅版 総合5P

- ①不正に家畜の肉類を国内に持ち込むことで、どのような恐れがあるか、記事を読んで考えてみましょう。
- ②肉類の不正持ち込み以外で、外国から国内に品物を持ち込む際にはどのような危険性について考えなければならないか、考えてみましょう。